すたぺんドリル

小6国語　文章問題　文学①-2

日付	名前
月　日	

問題 次の文章を、まず声に出して読みましょう。その後、問題に答えましょう。

そのとき、トブン。①黒い丸い大きなものが、②天じょうから落ちてずうっとしずんでまた上へのぼっていきました。キラキラッと黄金のぶちが光りました。

『かわせみだ』子供らのかには首をすくめて言いました。お父さんのかには、遠めがねのような両方の眼をあらん限り延ばして、よくよく見てから言いました。

『そうじゃない、あれはやまなしだ、流れていくぞ、ついていってみよう、ああいいにおいだな』

なるほど、そこらの月明かりの水の中は、やまなしのいいにおいでいっぱいでした。

三びきはぼかぼか流れていくやまなしのあとを追いました。その横歩きと、底の黒い三つのかげ法師が、合わせて六つおどるようにして、やまなしの丸いかげを追いました。間もなく水はサラサラ鳴り、天じょうの波はいよいよ青いほのおをあげ、やまなしは横になって木の枝にひっかかって止まり、その上には月光のにじがもかもか集まりました。

『どうだ、やっぱり【　　　】だよ、よく熟している、いいにおいだろう。』

＊やまなし……梨の原種。実は小さく、強い風で落ちやすい。

（宮沢賢治作「やまなし」より）

1 ——①、②は、それぞれ何を表していますか。

① （　　　　　　）

② （　　　　　　）

2 この文章の場面は、いつですか。それが分かる表現を二か所探して、——線を引きましょう。

3 この文章は、どのような場面ですか。

ア 水の中にいる三びきのかにが、かわせみにねらわれてこわがっている場面。

イ 水の中にいる三びきのかにが、頭の上に落ちてきたやまなしにおどろいた場面。

ウ 水の中にいる三びきのかにが、落ちてきたやまなしのにおいをかいでいる場面。

4 【　】の中に入る言葉を探して、文章中に書き入れましょう。